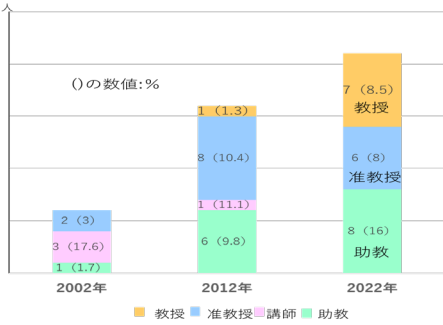


表題

工学系女性研究者が様々なライフイベントを通して働きやすい環境と活躍しやすい風土づくり

取組の様子

特色ある取組



(女性上位職登用の推移)



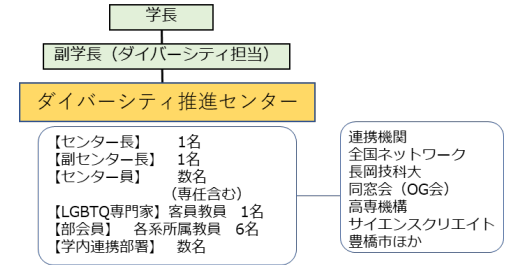
(女性支援エリア(授乳室))

- 工学系女性研究者を増やし、さらに上位職への育成と登用に力を入れてきました。そのために、女性限定公募や、優秀な研究者の学長裁量ポストを使った教授への昇進、積極登用により、上位職の女性研究者が徐々に増加しました(左図)。
- ダイバーシティ推進センター(右組織図)を設置(2022年4月)し、ジェンダーイノベーション研究と教育の推進、さらに関連大学との連携や企業との共同研究を展開し、学内外に情報を発信していきます。

- ライフイベント中の女性研究者(職員、学生含む)にとって働きやすい環境を整備するため、図書館に女性支援エリア(授乳室、パウダールーム、多機能ルーム)を充実させ、活用しています。
- 女性研究者を孤立させず、課題や悩みを知るため、定期的に学長との懇談会を設け、出された意見や課題を学内の制度に反映させ、PDCAサイクルを回し、環境や制度を充実させてきました。
- 長岡技術科学大学と、定期的なダイバーシティに関する意見交換を行い、好事例を互いの大学に取り入れ、活用してきました。
- ダイバーシティ風土の醸成や意識向上のため、川柳コンテスト、「育児・介護のための応援メッセージ」冊子等の発行、女子学生特別支援制度の学生による「ジェンダーバランスってアンバランス?」をテーマにした意見交換会等を開催し、成果を学内外に発信してきました。

期待できる成果・評価 など

- ライフイベント中でも、女性研究者のみならず全教職員が長期的に安心して勤務継続ができる環境が整った成果として、2022年にはくるみん認定を取得し、「イクボス宣言」をしました。これにより、だれもが個性を生かして活躍できる職場風土になりました。また、情報を定期的に発信することで、波及効果が期待されます。
- 女性研究者の上位職が増えることにより、意思決定の場において女性も意見を言いやすく、かつ反映されることにより、幅広い視点で大学運営ができるようになりました。
- 性差の視点を取り入れたジェンダーイノベーションや、女性視点が活用できるフェムテックの研究推進により、産官学研究の幅が広がり、女性研究者・技術者の参画による地域の活性化につながり、女子学生が増加する推進力になると期待します。



(組織図)



イクボス宣言 (2022年8月)

くるみん認定 (2022年7月)



(意識啓発のための冊子)



ダイバーシティ推進センターHP
<http://www.equal.tut.ac.jp/>